

総合的な学習の時間の まとめ

令和7年7月18日（現在）

総合的な学習の時間

第1章 PBL学習法とその目的

※ 目的その①

R6の成果と課題 道徳性は高まった。
自己決定力に課題。人間関係構築力・
コミュニケーション能力などに課題。

県の研究指定 **ちばっ子学びの変革事業(2年間)**

研究主題 自ら答えを見出し実践できる生徒の育成(問題発見・解決能力の育成)
～特別活動・総合的な学習の時間を核として～

手法	特別活動 → SEL8 (Social and Emotional Learning)
	総合 → PBL (Project Based Learning)

3

※ 目的その②

①探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

②実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

③探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に
参画しようとする態度を養う。

④**VUCAの時代に力強く生きてほしい**

V . . . Volatility(変動的)

U . . . Uncertainty(不確実性)

C . . . Complex(複雑性)

A . . . Ambiguity (曖昧性)

こんな時代だからこそ**正解がない問題**に取り組む力が
必要

「日本の探究」と「PBL(プロジェクトベース学習)」の異同

一般的には(辞書的あるいは生成AI的にいうと)

探究:探究学習とは、学習者が自ら課題(問い)を見つけ、情報を収集、分析し、仮説を立てて検証するなど、

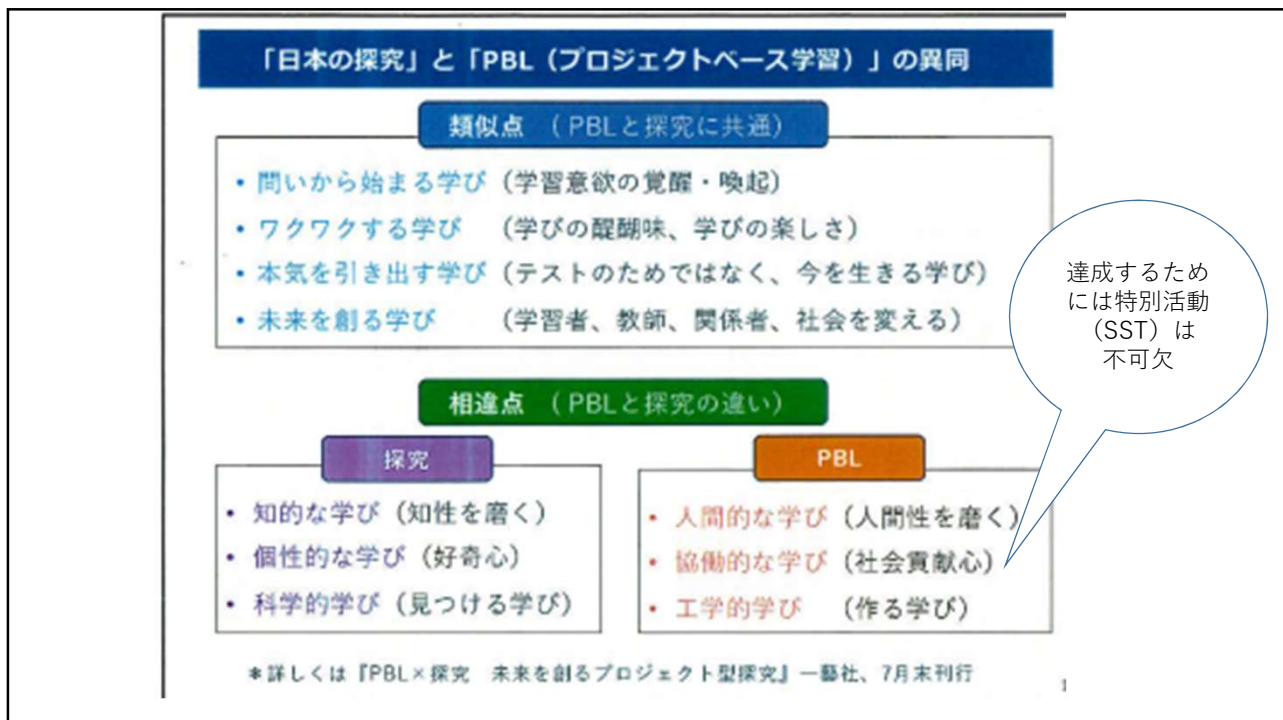
主体的・協働的に学びを深める学習活動である。知識の習得にとどまらず、思考力や表現力、課題解決力の育成を目的とし、探究の過程を重視する学習方法

「日本の探究」と「PBL(プロジェクトベース学習)」の異同

一般的には(辞書的あるいは生成AI的にいうと)

PBL:Project-Based Learningは、実社会や日常生活に関わる課題をテーマに、学習者が主体的に調査・分析・協働しながら解決策を導く学習方法である。プロジェクトを通じて知識や技能を実践的に活用し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力などの育成を目指す。

学習の過程と成果の両方を重視する学習法



	プロジェクトベース学習	日本の探究学習
概要	課題の解決に挑む人間的な学び	問いを究める知的な学び
教育目標	実践で身につけるコンピテンシー	学び方を学ぶ、リテラシー
教育目的	汎用的スキル、人間性の涵養	情報活用力、能動的な学習姿勢
主な方法	目的的活動、プロジェクト	情報収集、分析、整理、表現
問い・課題	実社会の複雑で現実的課題	教科横断的テーマ、トピック
参加者	グループ（あるいは個人）	個人（あるいはグループ）
活動目標	より良い生活、社会の実現	本質的な理解、知の創造
動機・意欲	人の役に立ちたい貢献心	深く知りたい好奇心
ゴール	制作物、解決策、社会実装	レポート、ポスター、プレゼン
評価	学習者あるいは関係者	教師あるいは学習者
身につく力	多様な経験から人間性を磨く	調査・研究から知性を磨く

第2章

PBL学習法の進め方

プログラム教科書について

第1章 総合的な学習の時間とは

第2章 PBL学習法の進め方

第3章 プロジェクトを成功させる秘訣
&
振り返りシートの記入について

記録ノートについて

- ・企画書について
- ・ウェビング（思考ツール）について
- ・意識する「生きるために必要な力
- ・学習履歴図について

これまでのまとめ成果

成果

- ・総合的な学習の時間の本来の活動や進め方を職員が少しずつ理解を深め、1学期内に始めることができた。
- ・学校教育目標、学区の課題に対しての育てたい資質能力に関してPBL学習法は有効的だと分かったと同時に、本学区小学校で先行研究が行われており、さらに発展的な研究が進められることが期待できる。

これからの課題

- ・職員全員がカリキュラムマネジメントを意識していかなければ、教科横断的に学習が進めることが困難となる。
- ・生徒主体的（教員＝伴走者）という認識のもと、学習活動を進めていかなければこの学習法は成立しない。
- ・この学習を機に地域の方とのかかわりを増やしていくことで、中学校の活動を発信していかなければならない。
（調査していく中で、中学校の活動が見えないという意見を多く頂いた。）